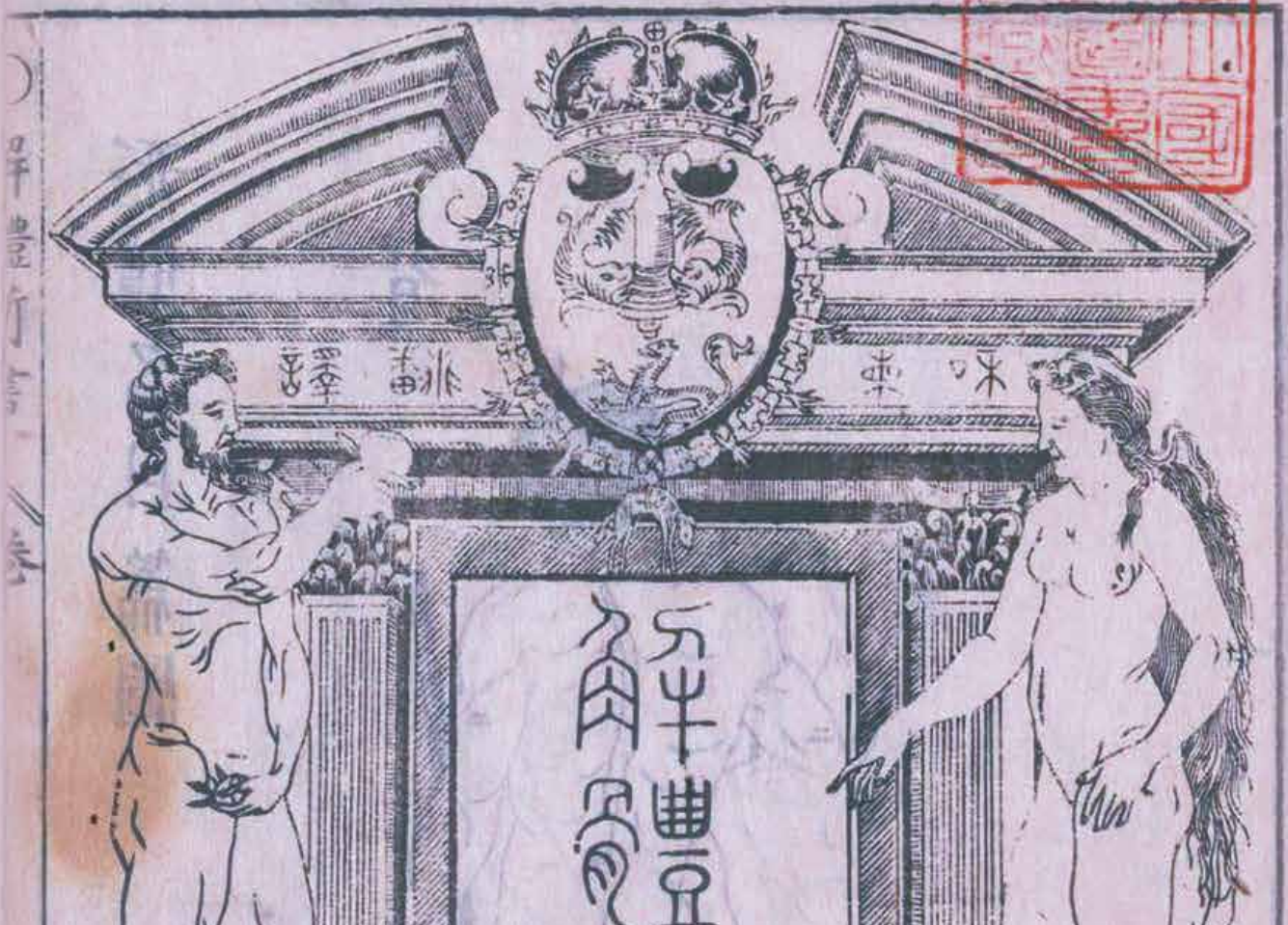


# 医療総合支援機構タイムス

発行：医療総合支援機構 / 〒502-0082 岐阜県岐阜市長良東2-37 RSDビル3階 北号室 電話 080-2658-4749



医療総合支援機構タイムス 第1回 対談

## 「ポストコロナ」～生き方・働き方～



(株)Indigo blue  
代表取締役会長

**柴田 励司**

Reiji Shibata



(一社)医療総合支援機構  
代表理事

**小倉 真治**

Shinji Ogura



## 医療総合支援機構タイムス 第1回 対談

## 「ポストコロナ」～生き方・働き方～

ゲスト (株)Indigo blue 代表取締役会長 柴田 励司 × (一社)医療総合支援機構 代表理事 小倉 真治

対談の様子は動画でもご覧いただけます

URL: <https://video.iryousougoushien.jp/homes/video/?vid=564018026>

右記 QR コードを  
スキャンして  
ご覧ください



**小** 本日は我々の対談シリーズの記念すべき第一弾ということで、柴田励司さんをお招きしました。どうぞよろしくお祈りします。

**柴** こちらこそ、どうぞよろしくお祈りします。

**小** さて、巷ではまだまだ新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており、変異株が増えてきました。コロナは、我々の生活の中に様々な変化をもたらしましたが、その変化とは何かを見つめ直し、医療業界そして一般社会から見た未来図をどう読んで先手を打つかという部分が重要だと思います。そこで、今回の対談では、コロナ下における働き方や生き方を中心にポストコロナについてもいろいろとお話を伺いたいと思います。ところで、柴田さんはコロナについてどんなイメージをお持ちですか？

**柴** そうですね。目には見えないけれどなんとなく近くに迫ってくるそんな印象を持っています。しかし、一方で、この騒ぎが始まって既に一年以上が経過し、情報過多と共に逆に見えなくなっている。そんな印象もあります。

**小** そうですね。目に見える不都合がないと人の行動というのはやはり楽天的になって緩くなっていく。正常性バイアスが働いているんじゃないかなと思います。

**柴** 確かに慣れてしまったというのはあると思います。ビジネス業界でも、コロナの第一波の時と比べると緊張感が半分以下まで低下しているような感覚があります。

**小** 私はこの現状には大変な危機感を持っています。どうしたら行動が緩くなる人たちに危機感を持ってもらえるのかというのが大きなテーマです。しかし、慣れがきているところに、ここまでは、規制も徐々に緩くなっていくから、危機感が薄れて

しまっているのだと思います。ですから、より厳しく危機感を再認識してもらい必要があるんですね。

**柴** なるほど。加えて、これはマスコミの報道の在り方にも原因があると思います。例えば、飲食店の問題ばかりがクローズアップされるので、なんで飲食店ばかりいじめられるんだと、政策の論点がずれてしまっています。

**小** そうですね。相手はコロナウイルスなのに飲食店を規制するやり方に話がすり替わっています。やはりコロナに対する政策の出し方や、報道の仕方を見直して、もう一度危機感を再認識しなければならない時期なのではないでしょうか。

## —— コロナ下における働き方・生き方とは

**小** コロナ下における働き方として当初からリモートワークが推奨されていますが、コロナに対する危機感の低下に比例して、多くの人がオフィスに戻ってきているような気がします。今はどのような状況なのでしょう？

**柴** 企業の対応は二極化しています。例えば丸の内の一等地の貸しビルで年間何十億とお金を払っていた企業ももっとリーズナブルなところに移転を決めたケースがあります。ほとんどの社員が在宅ワークで、オフィスには2割くらいしか人がいなくても業務が回るんですから当然ですね。また一方で、やはりリモートワークでは不自由だということでオフィスに戻る企業もあります。

**小** それは企業の業態によるものでしょうか？

**柴** 業態の影響はあると思います。どうしても現場に行かないと仕事ができないエッセンシャルワークに近い業態がそうですね。

**小** 医療業界はエッセンシャルワーカーで成り立っていますので、業態によって対応が違うというのはよく分かります。実際に目の前の患者さんに触れないと分からないことが多いのです。そういえば、電通が社屋を売却しましたが、これも二極化の一端ですか？

**柴** そう思います。広告業界は毎年業績が落ち続けていますから、多額の賃貸料を維持していくのは苦しかったと思います。コロナをきっかけ、経営陣がこれまでなかなかできなかったことを一気に変えてしまおうという動きが進んでいますね。

**小** なるほど。医療業界でも似たような状況があります。人口あたりのベッド数は、欧米よりも日本の方がずっと多いので、実はコロナ以前はベッド数を減らす方向に舵がきられていたんです。ところが、コロナが始まると日本は患者数、死亡者数と

もに欧米よりもかなり低い水準にあるのに医療崩壊だと言われています。これは日本と欧米では医療に求めるものが違うということに起因しています。日本の場合は、通常の医療体制を保ちながらコロナ対応をしていますが、欧米では通常の医療を縮小してコロナ対応をしているのです。しかし、今、最悪の状況が生まれつつあり、これを契機に日本でも欧米と同じような医療の対応を迫られることになるかもしれません。

**柴** なるほど。医療の専門家の緊迫感と、私の緊迫感との間にはとても大きな差がありそうですね。

**小** 我が家には子供が3人いますが、立場によって子供たちの危機意識も大きく違ってきます。こうした状況を見ていると、政策を誘導する側が危機感をどう伝えるかというのが今後重要になると思います。

**柴** そうですね。私も、総理大臣や地方自治体の首長などが発信するメッセージは今一つ響かないと感じています。情報だけが素通りしてしまうことがないように伝え方を工夫する必要があります。

**小** 実は医療業界も情報発信が弱い部分があり、私が岐阜大学病院長になった時に専従の広報官を雇って広報戦略を立てました。私は経営政策の一環として広報戦略を立てたのですが、政策を立てたら、これをしっかりと伝え、理解してもらうというところまでが為政者の仕事であると考えています。

**柴** そうですね。新しく制度ができてそれを知らないが故に使えないということはよくあります。小倉先生がおっしゃるように、もう少しコミュニケーションに軸足を置いて、メッセージを絞って伝える努力が必要ですね。

**小** はい。働く人たちにどう伝えていくかという部分は大切にしたいですね。

**柴** それから、働き方という面という、先ほど企業で二極化してきているという話をしましたが、コロナが多くの人の気持ちを変えたという実感があります。特に、介護が必要な家族や小さいお子さんを抱えて働いていた人たちの考え方が変化しています。朝9時から夕方5時の間で自分の家庭の都合を入れながら、仕事をスケジュールすることができるようになり、いわゆるワークライフバランスからワークライフインテグレーションへの移行が進んだのではないかと思います。これを実現できた人にとっては、「コロナが収束したらまた会社に来てね。」というのは困りますよね。その為、新しいワークスタイルに移行できない企業から、自分で考えて動いていこうという人たちが離脱していくという状況が生まれつつあります。

**小** 確かに、この働き方で成功経験をした人たちは元に戻すのは難しいですね。しかも、そうした人材の流出は組織にとっては大きな損失ですよ。

**柴** その通りです。特に若い社員や女性にその傾向が強いです。一方でデジタルリテラシーの低い、アラフィフ以上の、つまり会社の意思決定に関与できる重職についた人たちにはなかなかできないことなのでしょう。

**小** 組織の意思決定をするような立場の人でも、そうした働き方を容認するとか、あるいはそれを利用できればうまくやれそうな気はするんですけどね。

**柴** そうですね。彼らがそんなふうに変えられるかという部分が問題ですね。そして、この話はジョブ型の雇用形態に



も関係しています。今までは一度会社に入るとその会社の仕事は何でもやりますという考え方でした。ですから多くの社員はその場において指示を受けて動くという中で、何十年も過ごしてきている。これがリモートワークになると、ミッションや求められる成果は明確にされますけど、時間の使い方や作業手法については指示を受けた人が自分で考えて工夫していくこととなります。そうすると、それができる人にとっては非常に居心地いいからどんどん特化していきけることとなりますが、一方でそれができない人は具体的な指示がないから動けなくなってしまいうんですね。

**小** なるほど。しかし、これは学歴からくる差じゃないですよ。いったい何がそういう差をつくるのでしょうか？

**柴** 昔から言われているように「自分から課題を発見して動くタイプ」と「与えられた指示に対して完全な答えを用意するタイプ」の違いからくる差だと思います。どちらかと言えば、これまでは後者の人たちが比較的偏差値の高い大学を卒業し、企業内のあるところまでは勝者として昇進しているということが影響しています。

**小** これまでは指示待ちタイプが働き易い環境だったから、尊重されてきたけれど、いざ一人で考えて動く環境に放り出されるとこれができないというわけですね。

**柴** そうです。誰も指示してくれないと動けなくなってしまうんです。だから働き方とライフスタイルという側面では、コロナというのは、それがなければ10年以上かかったような変革を一気に進めてしまったくらい大きなインパクトだと思います。

**小** この流れは正常な進化だと思いますか？

**柴** 長い歴史を振り返ると、例えば東日本大震災のような大きな出来事が起きるとやはり社会の意識が大きく変わりますから、その意味では今回も正常な進化だと私は思います。

**小** では我々はこのコロナも利用する必要がありますね。私もワークライフインテグレーションというのは非常に好きな言葉なんです。やはりワークライフバランスだと遊びと仕事を切り替えるというイメージですけど、遊びながら仕事をするというのも、これからは多分アリなんですよ。

**柴** はい。充実した生き方は働き方に比例しますから。

対談の続きは「医療総合支援機構」  
ホームページでご覧いただけます  
URL: <http://iryousougoushien.jp/>

右記 QR コードを  
スキャンして  
ご覧ください



## —— コロナ下における死に方とは

**小** これまで「死」というのは一般的には遠い先にあるものと考えられていました。しかし、このコロナを契機に遠い先にあった「死」を意外と近く感じ始めている方が増えたと思います。厚労省が推進している政策の中にACP（個人が将来のヘルスケアについて計画を立てるというプロセス）があります。コロナ下においては「いざという時に延命措置を望むか否か」という選択を迫られる状況が生じており、極めて狭義ですがこれに答えを出していくこともACPの一環です。実際にコロナに感染すると患者自身が医療について選択できない状況が起こり得ますから、そんな時の為に医療を受ける受けないについての計画が必要になってきています。

**柴** いざというときの選択に予め答えを出しておくということですね。

**小** そういうことです。日本には介護保険制度がありますが、今後、高齢化が進行すれば、今と同じ水準の医療体制を維持していくことは難しくなりますし、今回のコロナのような突発的な状況に見舞われると尚更です。全ての方に同じ医療を提供することは難しいという状況が生じる可能性がありますので、晩年のケアプランを早めに選択していただく必要が出てくると思います。

**柴** なるほど。選択を済ませておくというのは良い考え方ですね。コロナによって先行きの不透明感が高まる中、情報のソースを見極め、正しいことが何かを自分の頭で判断して予め決めておくことが重要だということですね。

**小** その通りです。

**柴** 今、小倉先生がおっしゃったことを啓蒙していくという意味でも、例えば、小倉先生が推進されている Medica カードにもそうした情報を入れておくのが良いんじゃないですか？

**小** そうなんです。Medica カードに書き込むことは計画しています。ただ実際は、患者さん自身は心肺蘇生を望まないと決めていたのに、救急車を呼んだ人はそのことを知らないということが起きています。つまり既に選択を済ませているのにそれが伝わらず意思が活かせていないという状況が生じているのです。救急の現場では、患者さんの選択の有無とそれに関する情報伝達のはっきりしないことで混乱が生じますから、その部分を明確にするスキームは今後必要だと考えています。

**柴** なるほど。非常に重い選択に迫る話ですね。先ほどの小倉先生のお話で興味深いと思ったのは、例えば「延命処置はやめ



てもらおう」と決めていたとしても、いざとなると患者さんの気持ちが変わることはあるんじゃないですか？

**小** あります。ですから延命措置をしないと決めていたとしても、当然それを変更することができます。実際の現場で、どうするかというのが医療のまさに根源というか原点ですから。もちろん患者の意思が確認できれば治療を行います。ただ、大枠は決めておいて、つまり気持ちが変わらなければそのまま延命措置はしないという方針を決めておいていただくというのは必要だと思います。

**柴** 一般的には、お医者さんが「延命措置をしません」と言う判断をすることに違和感を覚える人は結構いるのではないのでしょうか？

**小** そうです。これはタブーとされてきたことですからね。ただ、日本の医学教育で最も遅れているのが、この死に対する教育、すなわち「死生学」だと思います。文字通り「死」から「生」を考えると学問ですね。死の話題に触れることが日本ではタブー視されている傾向がありますが、死は全ての人間に訪れるものなので、どう死んでいくのかについて考えておくことは非常に大事だと思います。

**柴** なるほどそのとおりですね。

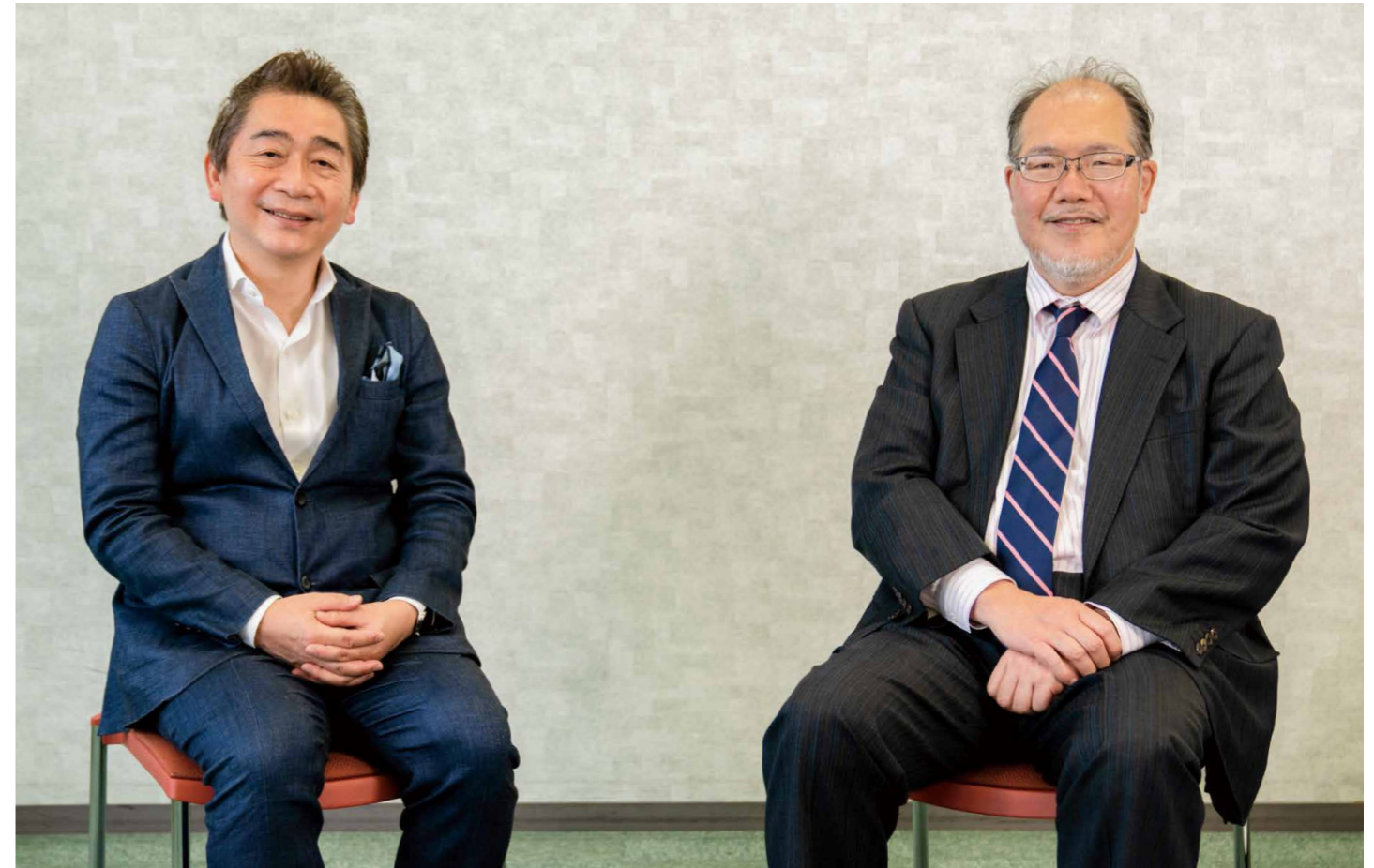
## —— ポストコロナの社会とは

**小** コロナ終息の見通しがたちませんが、柴田さんは数年先の社会をどのように予測されますか？

**柴** まず、コロナというのは完全に終息しないのではないかと考えています。仮に今回のコロナが何らかの形で終息したとしても、また新たな脅威が出現することがあるという前提で、企業リスクの一つとしてパンデミックも視野に入れた対応が必要だと考えています。

**小** BCP（事業継承計画）には災害だけではなく、感染症も含めて考える必要があるということですね。

**柴** そうです。これはつまり、人が集まることを前提にしたビジネスはそのやり方そのものを変えていく必要があるということです。また、どんな変化にも迅速に対応できる態勢にするということですから、何も指示がない中でもクリエイティブな仕事ができる人材の重要性を示唆しています。一般的に、企業の上層部の中には自分で考えて動くのは苦手な人が多い反面、そういうのが得意な若手というのはたくさんいますから、これを契機に世代交代や定年制の廃止、あるいは年齢要件の撤廃みた



いなことが進むのではないかと思います。

**小** その場合は評価軸がフェアでクリアじゃないといけませんね。特に降ろされる側の年輩の人からは相当な反発が出そうですがそこはどうされるんですか？

**柴** 確かに評価表の中で人を評価していくのは限界があります。しかし、考えてみると評価というのはそもそもレーティングを目的とするものではなく、その人により良くなってもらうために行うものでしょう。評価表に固執せず、評価の原点に立ち返りみんなで議論できる評価制度に移行するのが望ましいと思います。

**小** なるほど。

**柴** 例えば、私の会社(株)Indigo blueでは、評価対象者抜きで話し合いを行います。評価対象者が席を外している間に残った



連中で「これは今まで通りやってほしい。」あるいは「これはちょっとやめてもらいたい。」みたいなことを話し合うのです。それを社外監査役の人が評価対象者にフィードバックしています。この仕組みだとみんなのガス抜きになりますし、評価対象者には社外のニュートラルな人を通してフィードバックするので、素直に自分を見つめる機会にもなります。

**小** なるほど面白い。でもそれは評価者からの指摘が多い年は減俸もあり得るといっていい制度ですか？

**柴** そうです。ただ、給料を決めるには基本的な原則が2つあって、一つは、社内で同じような仕事している人がいたら年齢に関係なく同じ水準にすべきというもので、もう一つは、外部の人が自分と同じような仕事をしていたらそれと同じくらいの水準にすべきというものです。このことを内部公平性と外部競争性というのですが、この2つのことに留意していると凡そ年俸のような固定給与というのは一定の幅の中で意外と変わらないんですよ。

**小** なるほど。仕事が変わらない限り給料も大きくは変わらないと。これ大事なことですね(笑)。

**柴** はい。一方で、賞与は、儲かった時にはみんなで分けるとか、あるいはコロナみたいに厳しい状況のときはみんなでもらえないというやりかたがフェアですね。

**小** 会社が苦しい時に下の者の取り分を下げて、社長だけは変わらないというのはありえないですね。ポストコロナの社会では、自発的に動ける人材が重用され、それに伴い評価の仕組みも変わっていくということですね。

**柴** はい。今はそんな感じでポストコロナを予測しています。

# 新規会員紹介

新たに入会された医療機関を紹介します！



## さくらクリニック

院長 佐竹 真一 先生

**【院長略歴】**

1999年 岐阜大学医学部医学学科卒業  
岐阜大学医学部第一内科  
(現：消化器病態学講座)  
2000年 養老中央病院内科  
2001年 岐阜県立岐阜病院消化器内科  
2002年 岐阜市市民病院消化器内科  
2003年 岐阜大学附属病院消化器内科  
岐阜大学医学部附属病院  
高次救命治療センター  
2006年 羽島市市民病院消化器科  
2008年 さくらクリニック開業  
**【趣味】** 卓球、ゴルフ



### さくらクリニック

HP有

所在地/瑞穂市稲里689-3  
電話/058-325-0570  
診療時間/9:00~12:00  
16:00~19:00  
休診日/木曜日午後、日曜日、祝日

当院は、胃・大腸の内視鏡検査がセールスポイントであり、同日に両検査を実施することができるのも魅力の一つです。大腸内視鏡検査では、下剤を飲んだ後の待ち時間を個室で過ごすことができます。個室は全4部屋あり、トイレやテレビ、ソファ等も完備されており映画鑑賞もできます。なるべくリラックスして患者さんの緊張を和らげる空間づくりを心掛けています。先進医療機器の導入・検査を行うことで、早期に小さな病変を発見することができます。他にもエコーやCTなどの導入により高いレベルで検査を行うことができます。

専門分野だけではなく、風邪などの内科や小児科など、幅広い診療に対応しておりますので、まずは気軽にご予約・ご連絡いただければと思います。

**編集キャッチ!**

まるで病院のようなクリニックです。機器や設備の充実はもちろんのこと、在宅医療や訪問診療にも力を入れており、小さなお子さんからお年寄りまでをしっかりサポートし、地域の健康を守ってくださるのを感じました。

## 米倉胃腸科クリニック

理事長 米倉 幸人 先生

**【略歴】**

昭和39年3月 金沢大学 医学部医学科 卒業  
金沢大学付属病院 第一外科 入局  
浜松社会保険病院 外科 勤務  
医療法人 録三会 太田病院 外科 勤務  
昭和57年12月 米倉胃腸科外科 開院 院長就任  
平成4年9月 医療法人社団 誠志会 設立 理事長就任  
**【趣味】** ゴルフ、サックス



院長 米倉 悦子 先生

**【略歴】**

平成10年3月 獨協医科大学 医学部医学科 卒業  
獨協医科大学付属病院 第二内科(現：消化器内科) 入局  
済生会宇都宮病院 内科 勤務  
大田原赤十字病院(現：那須赤十字病院) 内科 勤務  
医療法人社団 福田会 福田記念病院 内科 勤務  
社団法人医療法人かなめ会 山内ホスピタル 内科 非常勤勤務  
医療法人社団 誠志会 内科勤務・院長就任  
**【趣味】** ゴルフ、温泉



### 米倉胃腸科クリニック

所在地/各務原市鵜沼西町3丁目131  
電話/058-370-0781  
診療時間/9:00~12:00、16:00~19:00  
休診日/水曜日、土曜日午後、日曜日、祝祭日

**編集キャッチ!**

親子でクリニックを経営されており、外科・内科・肛門科の診療にあたっています。とても息の合ったお二人で安心して受診することができます。胃腸を見れば健康状態や食歴状況がわかると聞きますが、自分の胃腸を知るために、一度は受診してみようと思いました。

## 第3回医療総合支援セミナー開催報告

2021年4月22日、第3回医療総合支援セミナーを開催しました。

今回のセミナーは、講師に柴田励司さんをお招きし、「ポストコロナ」について講演いただきました。

コロナ以前は、人が集まることでビジネスが成立していました。しかし、従来のように集まれなくなると、これまでのような考えを捨てる必要がでてきます。組織が持続的成長をするためには、どのような組織づくりや人材が求められるのか、今後の働き方・生き方について柴田さん自身の経験を踏まえ、わかりやすくお話いただきました。

### 1. 組織のあり方について

コロナ禍においてはこれまでのルールに縛られている発想や行動、物事の決め方から脱却し、スピードの変化に対応していくことが重要。組織は求心力型マネジメント(上が指示して、下が実行する)から、遠心力型マネジメント(自らの判断で動く)へと働き方を変えていく。会社が働きやすい環境を整えることで、遠心力マネジメントへと変わり組織に新たな視点や拡大をもたらしていく。自律分散モデルという形になる。



### 2. 多様性の確保と受容

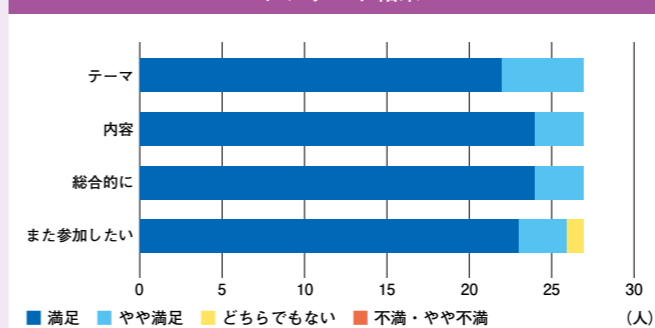
多様な人材が持つ個性を活かすことで、企業は強化することができる。同時に、働き方の選択肢を増やすことで、優秀な人材の確保・採用ができる。また、リーダーは明確なビジョンを立てながら、チームワークのあり方を整理することで組織は活性化していく。



### 3. ワークライフインテグレーション

「働く、学ぶ、遊ぶ」仕事とプライベートを一体化することで、柔軟性のある働き方が可能であり、人生をより充実させる考え方で、双方にメリットがある。

**アンケート結果**



セミナー後には、皆さんからご感想をいただき、「リーダーの在り方について理解が深まり、新たな気づきがありました。」「自分が経営者やトップになった時に実施するのではなく、今から取り入れていこうと思いました」「今後もシリーズ化してほしい」など、大盛況に終わりました。次回、第4回のセミナーは秋ごろを予定しております。ぜひ、ご参加下さい。

◀第3回医療総合支援セミナー アンケート集計グラフ

Medical member introduction

# 医療会員紹介

医療総合支援機構に加盟の  
会員の皆様をご紹介します



## 石木クリニック

院長 石木 佳英 先生

私は、患者さんのニーズにこたえられるような診療をしていきたいと思っています。

その中でも特に、内視鏡診療をメインにおこなっており、胃や食道などの上部内視鏡検査は月におよそ120件、大腸内視鏡検査は30件行っています。在宅患者さんも現在15名ほどの担当しており、在宅での看取りも行っています。他にも禁煙治療、睡眠時の無呼吸症候群の簡易的な検査、AGA「男性型脱毛症」の診療も行っており、あらゆるニーズにお応えできるよう取り組んでいます。

「オンライン診療」ではなく、しっかりと対面で話をし、聴診器をあてたり、お腹を触ったりと、患者さんの状態を判断し、そのうえで必要に応じて検査を行っています。

患者さんにいい医療を提供するためには、職員が楽しく仕事をしていなければなりません。年一度は2泊で職員旅行へいきます。春、夏、秋には1日休診日にして遠征にいきます。

職員一緒になって「一生懸命働き、一生懸命遊ぶ」をモットーに日々頑張っています。



◆石木クリニック  
所在地/関市西本郷通3-7-41  
電話/0575-23-7455  
FAX/0575-23-7455  
診療時間/9:00~12:30、15:30~18:30  
休診日/木曜日、土曜日午後、日曜日、祝祭日

## いまいずみクリニック

院長 今泉 松久 先生

私たちは、子供からお年寄りまで内科も外科もすべての診療にあたるクリニックを目指しています。

院長今泉松久はもともと心臓血管外科医であり、循環器疾患、生活習慣病そしてなによりも得意とするのは下肢静脈瘤の治療です。

しかしながら、それ以外なんでも何か困っていることなどあれば、「まずここで相談してみよう!」ここに来ることですべてが解決できるようなゲートキーパー的な役割でありたいと思っています。

例えば、足が痛い、しびれるなどの症状で困った人がいるとすれば、整形外科へいったほうがいいよ、もしかしたら別の病気の疑いがあるかもしれないなど、症状に応じて専門医を紹介します。

信頼され愛されるように、患者さんが求めることは、99.9%こたえていきたいです。今後は訪問診療をおこないながら「かかりつけ医」「ホームドクター」として、地域医療の貢献を目指していきたいと思っています。



◆いまいずみクリニック  
所在地/岐阜市早田栄町4-23  
電話/058-210-1184  
FAX/058-210-1185  
診療時間/9:00~12:00、16:00~19:00  
休診日/水曜日、土曜日午後、日曜日、祝祭日

## おおのレディースクリニック

院長 大野 元 先生

モットーは「一日ひとり、不妊治療にて人口を増やしたい」

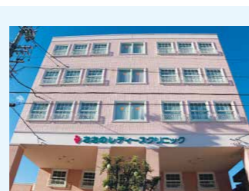
当院では、できるだけ早く、身体に優しい治療で妊娠することを最優先しています。

そのため、一般的な「ステップアップ治療」は行っていません。「必要以上の検査」も行いません。きちんと排卵があるのに、排卵誘発剤を使う意味はあるのでしょうか?これらを考慮しないで、教科書的に、漠然とステップ治療をすることで、無駄に時間を費やしてはいませんか?

より早くママになるために何をすべきか?妊娠できないことに対する苦悩をいかに早く取り除くことができるか?私たちは、患者さまの希望を優先しながら、最も高い治療を、できる限り軽減して提供しています。

当院の診察券を見てください。休診がありません。排卵はお産と同じように、いつ起こるかわかりません。それを考えると休んでいられません。

岐阜周辺の人口を増やしたい。私たちは常に患者さまの幸福だけを願っています。



◆おおのレディースクリニック  
所在地/岐阜市光町1-44  
電話/058-233-0201  
FAX/058-232-7148  
診療時間/9:30~12:30、16:00~19:00  
休診日/土曜日、日曜日午後

## 梶の木内科医院

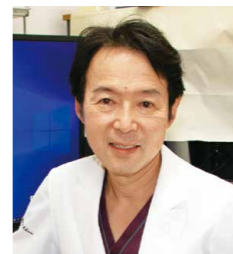
院長 梶 尚志 先生

地域の皆さま、スタッフ、その家族に対して一生のパートナーとして、寄り添う覚悟で診療にあたっています。

梶の木内科の理念は、社会貢献と人材育成です。共に働く医師や医療従事者、事務職員を「人財」として育てていきたいと思っています。感謝の気持ちや喜びを共有することにスタッフのモチベーションがあり、それを他人へ広げること喜びを感じているような人材です。

スタッフの教育には力を入れています。診療の合間に、「仕事の目標・目的を持つことが大事である」ということを指導しますが、一緒にWebセミナー受講をしたりして、共に成長しつづけることが地域貢献、他者貢献へとつながっていると思います。当院の特徴として、内科疾患に限らず、アレルギーや皮膚科領域など「身近にあって何でも相談のしてくれる総合的医療」を心がけています。

また、お子さんからお年寄りまですべてサポートできるよう、梶の木保育園(認可保育園開設)を立ち上げ、在宅医療に力を入れています。当院では、病だけをみるのではなく、病んだ人そのものに向き合う「心のケア」の取り組みもおこなっておりますので、少しでも気になることがありましたら、気軽にお越しいただき、ご相談下さい。



◆医療法人梶の木会 梶の木内科医院  
所在地/可児市川合2340-1  
電話/0574-60-3222  
診療時間/9:00~12:00、15:00~19:00  
(※土曜日のみ13時まで)  
休診日/木曜日、土曜日午後、日曜日、祝祭日

## 岐阜清流病院

理事長 名和 隆英 先生

「笑顔で生きて、笑顔で死にたい」

大多数の方の願いではないでしょうか。清光会は地域の皆様のそんな願いが叶うよう、ありったけの努力、心遣いをします。

急な病気にかかってしまった時、病気はよくなったけど動けなくなってしまった時、ご相談下さい。元気になっていただけるよう全力を尽くします。高齢のご家族の方が弱ってきたと感じられた時、弱られた時、ご相談下さい。ご本人とご家族の希望が叶うようサポートをさせていただきます。

最期を迎えられる時、ご相談下さい。一生で大切な時間をより良く過ごしていただけるよう、寄り添います。医療・介護を通じ、地域の皆様に「笑顔あふれる暮らしをお届けします。」これが清光会の理念です。

皆様に笑顔になっていただける、気軽に使っていただける、地域に根差した法人でありたいと思います。

何卒、よろしく願い申し上げます。



◆岐阜清流病院  
所在地/岐阜市川部3-25  
電話/058-239-8111  
FAX/058-239-8216  
診療時間/9:00~17:00、9:00~12:00(土曜日)  
休診日/土曜日午後、日曜日、祝祭日、年末年始

HP有

## かとう耳鼻咽喉科サージッククリニック

院長 加藤 雅也 先生

大学病院勤務医時代の経験を活かし、特に手術を含めて質の高い医療を提供していきたいと思っています。

広範囲な耳鼻咽喉科疾患に対応できる医療施設であり、これまで中耳炎手術を中心に取り組んできた経験から、手術はもちろんのこと、可能な限りここで完結できるような治療を努めています。それだけではなく、幼少期から岐阜で過ごしてきた人的ネットワークから、近隣の病院との深いつながりをもつことで、より良い医療が行えるよう心がけています。

耳鼻咽喉科疾患のみならず、困ったことやご相談がありましたら、気軽に当院へ足を運んでください。

【得意とする疾患】

- 中耳炎、アレルギー性鼻炎、花粉症、蓄膿症(慢性副鼻腔炎)、鼻出血、めまい、難聴、睡眠時無呼吸症候群など
- アレルギー性鼻炎に対するレーザー治療
- 耳鼻咽喉科(耳・鼻・のど)の病気全般
- 画像ファイリングソフトを導入、顕微鏡やファイバースコープ(耳・鼻・咽・喉頭の画像)所見、デジタルレントゲン、各種聴力検査などを供覧



◆かとう耳鼻咽喉科サージッククリニック  
所在地/各務原市蘇原花園町1-57-1  
電話/058-389-8733  
FAX/058-389-0404  
診療時間/9:00~12:00、16:00~19:00  
休診日/水曜日、土曜日午後、日曜日、祝祭日

## 東海中央病院

病院長 松井 春雄 先生

当院は公立学校共済組合の職域病院として設立されましたが、その後、地域住民の方々にも開かれた病院として、現在では、職域の健康管理を担うとともに、各務原市及びその周辺地域において、実質的に市民病院の役割を果たす中核的な公的病院です。

その責任上、経営上不利とされる不採算部門も含めて地域医療に貢献しています。

医療は公共財であるために効率の良い経営が必要ですが、同時に単純な利益至上主義にならないように努力しています。

将来は地域に貢献するために地域枠の医師が活躍できる場を整備したいと考えています。

2011年3月に新病院を開設し、これから大きな飛躍の時期にあたります。今後も、地域の医療・介護・福祉のコミュニティに密着した親しみのある病院を目指し、日々努めて参ります。



◆東海中央病院  
所在地/各務原市蘇原東島町4-6-2  
電話/058-382-3101  
診療時間/8:30~11:30  
休診日/土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始

HP有

## 独立行政法人国立病院機構 長良医療センター

院長 松久 卓 先生

当院は、2005年3月に国立療養所岐阜病院と国立療養所長良病院の2病院が統合し誕生しました。主に筋ジストロフィー・重症心身障害等のセーフティネット医療、結核をはじめとする呼吸器疾患、小児科疾患全般、産科周産期医療を4本柱として専門性の高い医療を提供してきました。しかし医療を取り巻く環境も大きく変わりました。



今後は従来の小児科疾患や呼吸器疾患の急性期を受け入れながら、さらに慢性期医療や終末期医療の提供についても視野に入れていきたいと考えています。

私の強い願いは2つあります。1つ目は、この病院が患者さんと職員にとって大切であり、なくてはならない存在であり続けることです。そのためには地域の皆さまと本音で話し合い、一緒になって考えることが重要です。2つ目は、職員がやりがいや誇りをもって働ける職場にすることです。本人のキャリアアップなどを積極的に応援し、援助し続けていきたいと考えます。今後、超高齢化社会を迎える2040年を見据えて当院はどのように舵をとっていくか、当院が本当に地域の人々から必要な病院であり続けるためにどうしたらよいかを考えながら職員一同努力していきたいと思っております。



◆長良医療センター  
所在地/岐阜市長良1300-7  
電話/058-232-7755  
FAX/058-295-0077  
診療時間/8:30~11:00  
休診日/土曜日、日曜日、祝祭日  
年末年始(12月29日~1月3日)

## 松波総合病院

病院長 松波 和寿 先生

当院は2014年7月に急性期医療に特化した北館が完成し、災害時の医療体制を整えると同時に、救急・急性期医療の充足を図っています。同時に、手術室を増室することで大動脈瘤、急性心筋梗塞や脳卒中にも24時間迅速に対応できるよう、万全な体制をとっています。



ESなくしてCSなしという言葉がありますが、当院では7階全フロアを医局とし、医師全員が垣根なくコミュニケーションをとることが出来るよう、充実した居住空間を確保しています。その結果、高い専門性を有した指導医たちと若手医師がいつでも気軽に意見交換ができる研修の場にもなっています。様々な専門医と総合診療医に接することでHト全体を診ることのできる総合的な能力が若い医師に身につくはず。

最近、イノベーション(技術革新)推進本部という部署を立ち上げました。地域に貢献すべく、考え方やシステムなど新しい価値観を創造し、日常業務に大きな変化をもたらす重要な部署となります。今後は、職員が決めた3か年ビジョンを実現していきたいと思っております。

### 【3か年ビジョン】

- 地域包括ケアシステムの要として、日本一の民間病院になる。
- 誇りを持った職場になる。● 選ばれる病院になる。
- 全職員が志を同じくし、常に成長・変化できる組織。



◆松波総合病院 HP有  
所在地/羽島郡笠松町田代185-1  
電話/058-388-0111  
FAX/058-388-4711  
診療時間/8:00~11:30/14:00~16:30  
休診日/土曜日午後、日曜日、祝祭日、年末年始

## まついファミリアクリニック

院長 松井 聡 先生

当院の前身、まつい小児科・小児外科医院は、数多くのお子様を診療し、小児医療を通じた地域貢献を果たして参りました。

昨今少子高齢化が一層進み、小さなお子様のみならず、ご高齢の方まで幅広くサポートできる診療所になることが望ましい時代となり、より全人的な医療が提供できるクリニックへと進化すべく、2020年2月よりまついファミリアクリニックと名を改め、新築リニューアルオープンいたしました。



父子2人3脚で近隣、岐阜地域のお子様からご高齢の方に至る全ての方の「かかりつけ医」として、専門病院との架け橋となる「ゲートキーパー」として、地域医療に貢献して参ります。

小児診療はこれまで通り、一般内科外科診療もしっかりと行って参ります。わたくし個人といたしましても、父の意思と信条を受け継ぎ、小児診療を大切にしつつ、これまで岐阜大学病院や市内の中核病院、名古屋のがん専門病院で外科医として小児医療から高齢者医療まで幅広く経験したことをもって、総合診療医として地域の皆様と父とともに医療貢献できればと思っております。お困りの際は当院へなんでもお気軽にご相談ください。



◆まついファミリアクリニック  
所在地/岐阜市福光東3丁目9番の7  
電話/058-233-2345  
診療時間/9:00~12:00、16:00~19:00  
休診日/土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始

## よしだファミリークリニック

院長 吉田 直優 先生

モットーは「人生を診療にささげる」です。地域に根差し、生後0歳から90歳をこえる急性期から慢性期まで、すべての患者さんの要望にこたえるという意味で「ファミリー」という名前をつけました。実際に4世代で通ってくれている患者さんもいます。



大学救命救急センターでの経験から、消化器、外科をメインに診療しつつ、地域の救急センター的なイメージを持っています。全ての疾患の入口を守るゲートキーパーとして、また、胃がん、大腸がんなどの悪性疾患の早期発見診断を目指しています。適切な高次医療機関に患者さんを紹介することができるのも、大学時代からの友人や先輩、後輩のおかげです。

今後も地域のご家族全員に愛される医院をめざし、全力を尽くして皆様のお力になります。予防接種・人間ドック、上部消化管内視鏡検査(経鼻極細胃カメラ)による検診や、ウォーターベッド型マッサージ器など各種機器を多用したりハビリテーションも行っていますので、お身体で気になる事がございましたら、いつでもお気軽にお越しください。



◆よしだファミリークリニック  
所在地/岐阜市竜田町7-8-1  
電話/058-248-1118  
FAX/058-248-1101  
診療時間/9:00~12:00、16:00~19:00  
休診日/水曜日、土曜日午後、日曜日、祝祭日

NEW 制服から医療用ガウンまで

YATRADE 株式会社 ワイエートレード  
〒500-8384 岐阜市藪田南5-16-17  
TEL:058-272-7701  
e-mail:yoshiro-a@ya-trade.co.jp

## アナリーズ・コーポレーション

(山田会計事務所マーケティング事業部)

■コンテンツ・マーケティング  
・貴院と患者さんをスマホでつなぐ!  
・患者さんに訴求する貴院の特色を検討  
・貴院の特色をデジタル広告化  
・ホームページのアクセスログ解析



■セカンド会計顧問  
・決算申告は現行の会計事務所のままで  
・月次経営決算書による オンライン経営診断  
・給与計算等のアウトソーシング受託

https://hp-keiei-shien.net/  
TEL:058-215-1855 FAX:058-215-1833  
〒502-0082 岐阜県岐阜市長良東2-37 RSDビル3階 北号室

搬出も重要な役割です。

・ホイスは1人の移動に10分かかりますが、ヘリポートがあれば1分で10人移動できます。  
・病院敷地が広くした場合は、他院や他業種への患者搬送も必要になります。  
・救急患者の受け入れ、のりかヘリポートの設備ではありません。  
・ヘリポートの設備を検討する方は必読!  
新刊『新・ヘリポートの造り方』 木下 幹 著  
発行 エアロフロンティア株式会社  
編集・制作 株式会社病院院社  
A4版・カラー、120頁 定価3000円(税別) www.aero.co.jp 印刷部TEL 03-5402-6810

お菓子水素タブレット

水素水が食べるお菓子になりました。  
水素補給! 手軽においしく

奥長良川名水株式会社  
岐阜県津市河原東291番地 TEL:0581-58-9011 FAX:0581-58-9010  
0120-320-355 奥長良川名水 岐阜

SUZUKI GROUP

企業制作 グラフィックデザイン カラーマネージメント プリプレス IRサポート  
印刷通販 TIA WEB制作 オンデマンド印刷 映像・動画制作・中継 商業写真撮影

岐阜製版株式会社  
〒502-0822 岐阜県岐阜市福田町1丁目30番地  
TEL:058-233-1313 FAX:058-233-6248

企画・編集・デザイン・組版・Webサイト  
撮影・動画制作・製版・印刷製本・物流

印刷を通じて 社会に役立ちたい。

周年事業 出版印刷 Gifu ebooks

本 社 岐阜県本巣郡北方町北方148-1  
TEL:058-324-2111 FAX:058-324-2119  
東京営業所 東京都千代田区神田1-4-9 松屋ビル4階  
TEL:03-3293-8441 FAX:03-3295-0806

～快適な暮らしをトータルプロデュース～

株式会社 トオヤマ

ソフトウェア開発 モバイルアプリ開発 webサイト制作

株式会社 パケモ

愛知県名古屋市東区美1丁目14-13  
アーク新栄ビルディング8F  
052-325-6789  
http://pakemo.jp

OUR CREDO

～私たちの信条～  
地域とともにコミュニケーション&マーケティングを軸に、人材とサービスのイノベティブ・カンパニーとしてさらなる可能性を追求します。

指定管理業務・公共施設運営管理 じゅうらくプラザ・OKB ふれあい会館  
イベント企画運営 医療セミナー・医療フォーラム・医療学会企画運営管理  
web制作、事務局代行 他

夢 感動 情熱  
未来志向型のイベントプロデュース

B-D00 コミュニケーションズ株式会社  
〒500-8155 岐阜県岐阜市長良東2-37 19番地  
TEL:058-213-0330 FAX:058-216-0776  
http://www.b-doo.com/

ライター募集 ▶▶ 「社会人経験のある医療系の国家資格を持つ方」ライター募集!

医療の世界は広範で、私たちの知識や経験だけではカバーできません。そこで、より多くの人に有益な情報を提供するため、書き手(ライター)になっていただける方を募集しています。

募集条件 「社会人経験のある医療系の国家資格を持つ方」に限ります。

応募方法 応募希望の方は、下記URLまたはQRコードよりアクセス。「問い合わせフォーム」から入力してください。このときは、【ライター応募】という一文を文頭に沿え、自己紹介と共にメッセージを送ってください。その後のやり取りの結果、採用を決定いたします。

お問合せ先 (一社)医療総合支援機構 事務局  
TEL:080-2658-4749 http://iryousougoushien.jp/

## 医療総合支援機構サイト上に掲載中の 医療記事を抜粋して紹介します

ウェブサイトはこちらから  
http://iryousougoushien.jp/



### 血液サラサラのお薬を飲んでいる方へ 「お薬きちんと飲めていますか？」



血管が詰まりやすくなっているため、処方された血液をサラサラにするお薬。「毎日きちんと飲んでくださいね」と医師や薬剤師から説明されたものの、ついつい飲み忘れていませんか？「飲み忘れても体調は変わらないし…」「毎日忘れずに飲むなんて難しい…」と思っていると、手元には大量に余ったお薬が。そして次の受診日には、さらにお薬が処方され…思い当たる方もいらっしゃるかもしれません。

血液サラサラの薬(抗血栓薬)を一日飲み忘れたとしても、体調はほとんど変わりません。しかし一度の飲み忘れをきっかけに、薬を飲まない日が続くと、危険な病気を引き起こしかねません。そこで今回は抗血栓薬を飲む意義や、飲み忘れたときのリスク、忘れずに飲むための工夫について紹介します。

今回紹介する内容を正しく理解して、血液が詰まって危険な病気になるのを予防しましょう。

- (1)血液サラサラ薬(抗血栓薬)とは何のために飲むお薬？
- (2)抗血栓薬には、抗凝固薬と抗血小板薬がある
- (3)“何のお薬を飲んでいるか”を確認しましょう
- (4)血液サラサラ薬を飲むときに注意すること
- (5)血液サラサラ薬を飲み忘れるとどうなるの？
- (6)お薬を飲み忘れないための工夫
- (7)お薬を飲み忘れたときの対応
- (8)まとめ



### コロナに立ち向かう医療スタッフの 大変さをわかってください ～いま1人ひとりができること～



私たちの生活は、コロナウイルス感染拡大により一変しました。ニュースでは毎日のように、コロナウイルス新規感染者数が報道されています。未だ終息の目処は立たず、先の見えない状態です。感染をすれば死ぬ可能性のある感染症は、本当に怖いのです。そのような中でも医療スタッフは、懸命に患者さんの対応を行っています。感染者の対応をする医療スタッフは、様々な思いがあるでしょう。

医療スタッフの過酷な現状をお知らせしたいと思います。そのなかで、1人ひとりができる行動についてもお話ししたいと思います。



- (1)医療スタッフの現状について
  - 感染対策による業務量の変化と増加
  - 報われない待遇面
  - 離職者の増加による人手不足
  - 医療スタッフに対する誹謗中傷
- (2)1人ひとりができる行動について
- (3)まとめ

## 会員募集について

一般社団法人医療総合支援機構は、医療に関わるあらゆる悩みや不安を解決することを目的としています。医療福祉の分野は数多くの職種によって支えられており、職員の満足を得ることも重要です。いっぽう、患者にとっても受けている医療に対して満足していただくことが重要になります。

当法人では、医療に関わるあらゆる方の悩みや不安を解決するための支援を行っています。さまざまな職種のプロフェッショナルメンバーがチームとなり、直接、間接的に活動をおこないます。

医療の質の向上、職員満足度と患者満足度の向上、そして業務の効率化、職員の採用、教育、リーダー育成などにおいて、常に向上し続ける病院文化を目指す皆様をさまざまな職種のプロフェッショナルがサポートいたします。

### 現在の会員に対する活動

#### 1 機関誌に掲載

取材に基づいた各医療機関の売りとする特徴等を機関誌に毎号掲載します。機関誌は毎号、対談やセミナー、医療記事など、他の楽しみもあります。

#### 2 ホームページ掲載

機関誌同様、各会員医療機関の掲載があります。

#### 3 ホームページ作成支援

会員メンバーを含め、ホームページの作成支援を行っております。

#### 4 セミナー 会員無料

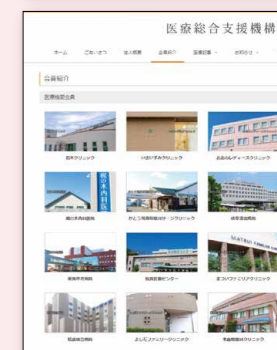
年に2回、特別講演会を行っております。講演する人材は業種・職種問わず、幅広く集めています。

#### 5 医療コーチング講習 会員無料

従業員の承認する文化を醸成できるようコーチング研修を動画にて配信しています。

#### 6 医療安全講習 会員無料

クリニックを含めた、あらゆる医療機関に必要な基本領域講習を動画にて配信しています。



上記のような特典のある医療会員、またこの活動に賛同する賛助会員を募集中です。  
是非ご入会をお待ちしております。

問い合わせ先 一般社団法人医療総合支援機構 事務局

MAIL : info@iryousougoushien.jp TEL : 080-2658-4749 FAX : 058-230-6451

ウェブ  
サイトは  
こちらから



我友人杉田玄白所譯之解體新書成矣令予寫之圖焉  
夫紅毛之畫也至矣哉如余不佞者非敢所企及雖然又不可  
圖怨及朋友嗚呼與買怨于同胞寧流臭於千載邪四方君

子幸恕也

東羽秋由藩小田野直武

